

# 内部格付手法のもとでの銀行保有株式の取扱 (今回のワーキング・ペーパーの案)

	イ)信用リスクを把握する方式 (PD/ LGD方式)	ロ)価格変動リスクを把握する方式 (市場ベース方式)
計算方法	<p>発行体のデフォルト率を融資の内部格付と同様の方法で推計。            ・デフォルト時損失率としては100%を想定。            融資と同じリスクウェイト関数を適用。            ・リスクウェイト100%を下限とする。</p>	<p>以下の二つのうちから銀行が選択  <u>内部モデル方式</u> :保有期間四半期、信頼区間99.5%のVaRに見合う自己資本の保有を求める。  <u>簡便方式</u> :上場株式については250~350%程度、非上場株式については400~500%程度のリスクウェイトを適用する(具体的な水準は今後決定)</p>
適用条件	<p>・上場株式で、長期的な顧客関係の一環として投資されており、短期にキャピタルゲインを実現することが期待されておらず、長期的にもトレンドを上回るキャピタルゲインが予想されていないもの。            銀行が発行体と融資ないし一般的な銀行取引の関係にあり、デフォルト率の推計値が容易に入手できる場合が殆どと期待される。            一般的には銀行は長期(最低5年)にわたり当該株式を保有するものと期待される。            ・非上場株式で、投資収益が、キャピタルゲインに基づかない規則的かつ定期的なキャッシュフローに基づくもの。トレンドを上回る将来のキャピタルゲインが期待されておらず、含み益の実現も予定されていないもの。</p>	<p>全ての株式に適用可</p>